

アゼルバイジャン・ワイン生産者・輸出者組合

アゼルバイジャンワイン生産者・輸出者組合のイルハム・イダヤトフ事務局長にインタビューし、同組合の役割等についてお話を伺いましたので、以下にご紹介します。

1. アゼルバイジャンワイン生産者・輸出者組合は、会長、事務局長及び職員 1 名という 3 名体制の小さな組織であり、事務所は有していません。私たちの組合の重要な役割の一つは、組合員のワイン生産に必要な資機材の調達(輸入)支援です。国内には 20 のワイン生産者がありますが、中には小規模生産者もいて、一社単独では資機材輸入オーダーのロットが小さい等の理由で生産資機材の調達が容易ではない場合があります。各社に資機材輸入に対応する人的資源が不足していることもあります。そのため、組合が小規模生産者に代わって、生産資機材等の輸入を行います。
2. 組合のもう一つの重要な役割は、組合員の輸出支援です。ワイン輸出先各国(地域)は独自のワイン輸入基準を設けており、同基準を満たすことが容易ではないこともあります。特に小規模生産者・輸出者が自力でワイン輸出先国のワイン輸入基準を満たすことは困難なこともあるので、組合員のニーズに応じた輸出支援も行っています。特に欧州は、ワイン輸入において原料に関する細かい規制を設けていて、すべての規制をクリアするためにはワインの品質向上の取組が必要なこともあります。
3. 当地のワインの輸入に関心がある外国企業からの照会は、通常、アゼルバイジャン輸出投資促進財団(AZPROMO)を介して受けていますが、外国企業とアゼルバイジャンワイン生産者が直接やり取りする場合があります。先日、シンガポール企業から自分に対して、当地のワインの輸入に関心があるとの連絡がありました。類似の連絡があった際は自分から組合員に対して情報を共有しています。また AZPROMO が、外国で開催される食料品展示会等で当地のワインを出展することもあり、同出展が、当地のワイン生産者と展示会開催国の企業や第 3 国企業との商談に発展することもあります。このような当地のワインの外国での出展や、外国都市において当地産製品の輸出を促進している「アゼルバイジャンハウス」において当地のワインを販売すること等は大きな広報効果があると考えています。
4. 当地のワインの輸出に際して、一番の課題は輸出先国のワイン輸入基準(条件)を満たすことです。日本のような先進国であれば、かなり高い基準が設定されていると推測します。国内のワイン生産者の内、日本のような国に輸出できるワインを製

造できる生産者は5者ほどに限られます。仮に日本企業が、ワインを輸入するに際し、品質管理のためワインの原料として使用するブドウの農園管理、ワイン生産工場の生産過程の管理等、ワイン生産を包括的に管理することを希望する場合、そのような希望に沿う形で、当地での業務委託のアレンジに関し組合として支援することも可能だと考えています。

5. 当地のワイン生産者の中には、対日輸出実績がある生産者もいますが、いずれも複数年の輸出契約ではなく小規模ロットの輸出であり、在庫が売り切れたら新規輸出を検討するというもので、安定した対日輸出は実現していません。その大きな理由の一つとして、日本のワイン市場におけるアゼルバイジャンワインの知名度がまだ低いことがあると考えています。アゼルバイジャンワインの日本への輸入に関心がある日本企業からのご連絡を歓迎します。

Ilham.idayatov@mail.ru (イダヤトフ事務局長メールアドレス、英語で受付)

(以上)